

■技をみがく

おおの まなぶ
大野 学

西南学院大学神学部 選科2年 釧路キリスト教会推薦

今回、神学校週間にあたり、日頃より神学生の成長を期待し、お祈りいただいている全国の諸教会、伝道所の3万人の信徒の皆さまに対し「証し」をできることを心より感謝いたします。

私は、推薦教会の牧師に憧れ献身を決意しました。信仰歴も短く、そのことがコンプレックスでありました。しかし、そのような不安は大学の先生方との人格的交流の中で、解消されていきました。なぜならば、先生方はどのような質問に対しても、真摯かつ誠実に受けとめ、そこから生徒のタラントを引き出そうと必死にかかわっていただけからです。それは、まさに授業ではなく牧会と表現しても良いかもしれません。

神学部の授業は信仰の有無に関係なく受講できます。そして、その授業で求められるのは聖書の記述を鵜呑みにせず自分で思考し、失敗を恐れず答えを自分で見つけていく挑戦的な姿勢です。先生方は学生たちの応答を心待ちにされています。ゼミナール形式の対話を重視した授業を通じての、先生方、学友との人格的交流がそのことを私に気づかせてくれました。

私はこれから、牧師でなければならない技術や、正確な知識を神学部の学びの中で、先生方や学友との交わりを大切にしながら身に付け、誰に対しても自信をもって、「西南学院大学神学部でこれを学んだ」と伝えられる、確かなものをもつ牧師を目指します。



「実践神学概論 A」の授業風景

■神学校の学びによって与えられた召命感

ひかわひとし
氷川英俊

東京バプテスト神学校 専攻科2年 百合丘キリスト教会推薦

私は5年前に東京バプテスト神学校本科に入学しましたが、いよいよ専攻科の最終年度となりました。今年度は教会実習と卒業論文に専念する予定です。仕事をしながらの夜間の学びでしたので、仕事と学びの両立が難しい局面もありました。その中で全国の皆さまのお祈りと献金に支えられてここまで学びを続けることができたことを感謝いたします。

東京バプテスト神学校は門戸が全ての信徒に開かれており、召命感を持って専攻科で学んでいる方以外にも本科や後援会受講などを通してさまざまな方が学んでおられます。私も最初に本科に入学した動機は、聖書について学びたい、特に聖書を原語で読みたいというものでした。しかし、神学校での学びとは単に聖書の学びだけではなく、「実践神学」や「教会史」、「賛美歌学」などさまざまな講義があります。これらの科目も学んでみると意外に面白く、新しい発見だらけでした。このような講義や、また先生方や他の学生との交流を通して、キリスト者としての生き方を学ぶことができました。最初の講義で『「よく学んだ」で終わらず、「こう生きてみよう」が大切である。聖書にも「正しい答えだ。それを実行しなさい」(ルカ 10:28 善きサマリヤ人のたとえ)と書かれてある』と学んだのが今でも頭の中に残っています。

そのような神学校での学びと交わりを通して召命感が与えられ、現在専攻科で学んでおります。皆さまに感謝いたします。



「組織神学Ⅱ」の授業風景

神学校週間・・・1978年全国壮年会連合第1回総会において、1979年度より6月第4週の1週間を「神学校週間」とすることが決議されました。同年(1978年)第32回日本バプテスト連盟総会で、この「神学校週間」設定が可決されました。

サイト版QRコード



神学校献金 2025年度 目標額2500万円

3,4ページは連盟 全国壮年会連合が担当しました。

奨励 「私たちの教会の将来に目を向けて」

東京バプテスト神学校 理事長 足立 智幸(宮原教会)



この度、東京バプテスト神学校の卒業生として理事長に就任しました足立智幸です。2025年度の神学校週間を迎えるにあたり、皆さまの日頃のお祈りと支援に、心より感謝申し上げます。神学校献金は、神学生たちの学びと生活を支えるだけでなく、今年度からは連立等神学校そのものを支え、献身者の更なる養成を通して、全国の教会を支えていく大切な働きです。

私たちバプテストは、「万人祭司」の思想を基本とし、すべての信徒が神の前に立つ者とされています。そして、牧師は資格ではなく職分であり、神の召しに応じて教会を導く特別な使命を担っています。西南学院大学神学部や、夜間、通信で学べる東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校では、それぞれの献身者の背景やライフスタイルに応じた学びが可能で、さまざまな形で学びと献身が実現されています。一方で、私たちの教会を取り巻く現実は大変厳しく、世界的にも類を見ない少子高齢化

による、信徒数の減少と献身者の減少、無牧師教会の増加といった課題に直面しています。全国のプロテスタント教会の約15%が無牧師であり、牧師の15%が75歳以上という現状です。そのような状況でもなお、私たちは希望を失わず、将来の教会を担う献身者を送り出し、支え、自らも年齢、性別に関わりなく召命に応じて献身する信仰の歩みを続けることが大切です。さらに全国の諸教会・伝道所では、献身者を掘り起こし、将来の伝道者を養成し支えるためにも、牧師が安心して働ける環境を整え、責任をもって支えることが、重要な働きの一つとなっています。教会で生き生きと働く牧師を見て献身者は育つからです。

この神学校週間を機に、改めて、私たちの教会の将来に目を向け、キリストの働きのために祈り、積極的に仕えてまいりましょう。キリストの体なる教会がさらに祝福され、豊かに成長していけますように、引き続き、皆さまのお祈りとご支援をよろしくお願い申し上げます。

「神学校献金への期待」

奨学金委員長 北村 慎二(宝塚教会)



今年度から神学校献金が東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校の運営資金としても用いられることとなりました。両神学校合わせて年間350万円の資金支援となりますので、この分を含めて、昨年以上の神学校献金の献金をよろしくお願い申し上げます。

数字上は西南学院の在籍する神学生数が想定していた10名に達していないため、神学校献金会計の資金収支は黒字となっており、上記の350万円を加えましても、2025年度の収支見込みは黒字となると予想しております。但し、この状況では、神学生の毎年の卒業生が平均2.5名程度となり、西南学院出身の牧師は40年間で100名の牧師しか生み出せないということになってしまい、牧師数が圧倒的に不足してしまいます。もちろん、両神学校から多くの牧師を輩出いただいておりますし、この意味で両神学校へのサポートも充実させてゆく必要もあることでしょう。また、西南学院神学部の教員となる人を育てるための海外留学奨学金の検討も必要になってくるかも知れません。

今年度の神学校献金の目標は2500万円となっています。昨年実績は1639万円でしたので、目標を達成するためには昨年度の1.5倍の献金が必要ということになります。目標金額の妥当性については、いろいろとご意見があろうかと思いますが、伝道者を志そうと思う者の決断の後押しをするためにも、奨学金制度のさらなる充実も必要かと思えます。将来の人材に対する必要投資という観点から、是非ともよろしくお願い申し上げます。

なお、西南学院の施設費が今年度入学者より3万円上がったため、奨学金も3万円増やしております。また今年度から、両神学校の運営資金のための支援金として、350万円が用いられます。諸物価上昇、教会員数の減少等、教会財政としても大変厳しい中とは存じますが、何卒ご理解、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

神学校献金の過去12年間の推移

年度	献金額 (万円)	増減 (万円)
2024	1639	60
2023	1578	23
2022	1555	-33
2021	1588	-15
2020	1603	-341
2019	1944	-42
2018	1986	-313
2017	2299	64
2016	2235	8
2015	2227	-55
2014	2282	-10
2013	2292	64

万円単位で記載